

対象

小学生・中学生・高校生

参加費無料

2026

プロジェクト始動!

はこだてマ 海藻 アカデミー

未来のために
海藻を学ぼう



HAKODATE

日本 周辺海域は **海藻の宝庫** と言われています

その海藻が豊かな海や地球環境に果たす重要な役割とは??

はこだて海藻アカデミー2026はその秘密を探り

未来へつなげる取組を考える“海の学び”のプログラムです

www.kaiso-academy.com



■主催・企画 / 一般社団法人 海藻文化振興会 ■助成 / 公益財団法人 日本財団

■協賛  一般社団法人 環境まちづくり支援機構 MATI Alliance Support Organization **海藻活用研究会** ■協力 / 海とこんぶの森プロジェクト

実施期間: 2026年4月1日～2027年3月31日

プロジェクト① 昆布の危機を救え!プロジェクト

■2026年5月～2027年3月(計4回) / ◎場所: 北海道函館市 ◎定員: 各回20名程度

函館市内や周辺の学校と連携し、小学生・中学生・高校生を対象に、海藻について楽しく学べる出前授業を行います。昆布干し体験や昆布を使った料理の美食など、子どもたちが気軽に参加できる、海藻についての学習機会となります。夏休み中に一般参加のイベントも企画しています。

プロジェクト② 海藻と環境セミナー

■2026年6月、7月(2回) / ◎場所: 北海道函館市・奥尻町 ◎定員: 各回8名程度

養殖漁場を活用し、ブルーカーボンのクレジット申請に向けた資源量の測定体験を行います。あわせて、海藻の役割や仕組みを学ぶ講義と、測定データをもとにした二酸化炭素固定量の計算実習を行い、助成の申請・管理に活用します。

プロジェクト③ 海藻ピッチイベント

■2026年5月～2027年1月(計5回) / ◎場所: 北海道函館市 ◎定員: 5チーム(高校生)

日本全国から選抜した高校生5チームとともに、海藻を活用して地域課題解決を目指す講座を実施します。専門家の指導のもとで調査・探究に取り組み、その成果をピッチイベントで発表します。さらに、企画実現に向けた商品の試作品づくりや企業とのマッチングも行います。

2026年
4/19[日]

「まずは話を聞きに来てね♪」
キックオフセミナー開催

会場

函館サーモン・まるなまアリーナ(函館アリーナ) 多目的会議室B

詳細は
裏面!



はこだて海藻アカデミー2026

キックオフセミナー

2026 4.19

SUN

14:00 ▶ 16:00

入場無料 / 定員30名

函館サーモン・まるなまアリーナ(函館アリーナ)

多目的会議室B

住所: 北海道函館市湯川町1-32-2

基調講演

海藻の生態と役割を知る

(公財)函館地域産業振興財団・副理事長
北海道立工業技術センター・センター長

やす い はじめ
安井 肇

講師

1955年、京都市生まれ。北海道大学卒業。水産学博士。専門
は海洋共生学、海藻学。北海道大学で助手、准教授、教授。前
水産学部長・学院長・研究院長。北海道大学名誉教授。イノ
ベーションアワード2013全国イノベーション推進機関ネット
ワーク会長賞、平成30年度北海道科学技術賞。

著名な
海藻博士による
クメになる
お話です



活動報告

「はこだて海藻アカデミー2025」の事業報告



海藻と環境セミナー

奥尻島で地元の学生と一緒にブルーカーボン調査を体験



奥尻ブルーカーボン体験



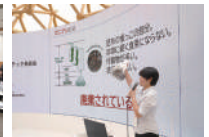
昆虫の危機を救えプロジェクト

昆虫製品の加工現場の見学やスマート昆虫の試作体験



ビジネスプラングランプリを目指せ!

高校生による海藻を活用した新ビジネスプランの開発



昨年度の参加者の体験談や高校生によるビジネスプランのプレゼン動画の上映もあります!

《本年度実施する各プログラムの紹介》

昆虫の危機を救え!

海藻と環境セミナー

海藻ピッチイベント

第1回目のキックオフセミナーでは事業全体の説明や各プログラムの概要説明を行います。当日参加者のみなさんには簡単な自己紹介などをとおして交流を深めていただきます。奮ってご参加ください。

体験 コーナー

触って味わって
海の恵みを体感しよう



海藻ねばねば体験

「昆虫に触れてみよう」



海藻商品体験

「海藻が原料の化粧品・食品」

参加申込はコチラ【WEB会議での参加もOK】

はこだて海藻アカデミー キックオフセミナーは右記のGoogleフォームからお申込ください



お問合せ

一般社団法人 海藻文化振興会事務局
メール:k-yamamoto@hokkaido-marine.com

TEL 0138-84-8240

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION